

# 木崎中だより

9号

平成31年1月8日（火）  
さいたま市立木崎中学校  
048(886)4302

## 「グローバル化社会と伝統の継承」

校長 大谷 慎也

新年明けましておめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、穏やかな日の中、健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。お蔭をもちまして、本日無事に第3学期始業式を迎えることができました。誠にありがとうございます。

さて、一昨日6日は「寒の入り」、昨日7日は「七草」でした。年末から年始にかけて、各地で五穀豊穰や子孫繁栄、無病息災を願う伝統行事が執り行われ、その様子がテレビで放映されたり、新聞に掲載されたりしました。昨年末には、「男鹿のナマハゲ」をはじめとする8県10行事の「来訪神 仮面・仮装の神々」がユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されることとなりました。しかしながら、2年前の共同通信社の調査によると、都道府県が無形民俗文化財に指定した祭りや踊り等の伝統行事のうち、継続して実施することが困難になり、休廃止されたものが20県で60件もあるとの報道がありました。無形民俗文化財とは、地域に根差し、世代を超えて受け継がれてきた祭りや年中行事、芸能、生業に関わる技術等です。例えば、獅子舞、歌舞伎、古典落語、陶芸、染織、手すき和紙等です。市町村や都道府県等、自治体が指定しますが、文化財保護法に基づき、国民の生活文化を理解する上で特に重要と認めたものは、国が指定します。自治体や国からの補助金により活動資金を得て、保護しています。

なぜ、休廃止されたものが多数あるのでしょうか。その理由として考えられることが記されていました。まず、過疎化や少子化、若者の都市部への流出です。つまり、担い手の減少です。次に、昨今の自治体の財政難です。国指定の文化財であれば、一定の支援が見込まれますが、そうでない場合は、自治体の支援に頼るのみです。潤沢な自治体はそう多くありません。衣装や用具等の修理代、保存や記録に要する資金に苦労しているのでしょうか。これらの対策として、地域外から担い手を公募し、確保する自治体もあるとのことですが、外部の人が運営の主体となると、地域行事の意義が薄れるという懸念が生まれます。資金については、企業による支援基金の設立を推進するように自治体が国に提案している例もあるとのことですが、実現はしていません。そこで、学校を核に据え、地域文化を大切にすることを育て、奨励するという根本的なところから取り組む自治体が増えているそうです。具体的には、学校と連携して、クラブ活動や出前授業等、鑑賞し、実演しながら、地道に後継者の育成に努めるということです。現在、グローバル化の進展する中で、教育をはじめ、様々な分野で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくために、自らの国・地域の伝統や文化について理解を深め、尊重する態度を身に付けることが求められています。未来志向型の社会を目指すには、我が国の伝統や文化の理解は不可欠であり、その伝承にも力を注ぐことがバランスのよい社会を築く第一歩と考えます。「旧き良き時代」の遺産は、「新しき良き時代」を創造する宝と言えるのではないのでしょうか。

今年度もあと2か月あまりとなりました。2学期の終業式後に行った表彰では、多くの生徒が体育館のステージに上がりました。日頃の努力の結果は、尊敬に値します。とても頼もしく感じます。式辞の中で、「『努力』とは、日々積み重ねていくことだと思いつつも、『毎日少しずつ』ということがなかなかできないのが、私の反省点でもあります。この機会に、現代歌人である俵万智さんの『努力できるということも実力のうち』という言葉を少しでも心掛けていこうと思います。」と述べました。そして、新年を迎えるに当たり、目標を掲げるように伝えました。新たな創造の風が木崎中学校に吹くことを期待しています。

いよいよ本格的な寒さの到来となります。しかし、ひと月足らずで立春を迎えます。この1年間が、生徒、保護者の皆様、地域の皆様、教職員にとりまして、幸せな年となりますことをお祈り申し上げます。そして、教職員一同が「共汗・共感」を合言葉にし、教育活動を推進してまいりますので、さらなる御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。